

ISSN 1881 - 980X

日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：宮崎大学大学院教育学研究科 内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2013.4.15

NO.212
.....

科学教育研究レター



目 次

■ 理事会だより2	■ 研究会・支部だより12
第 255 回理事会報告（案）		2012 年度研究会開催のお知らせ	
■ 学会賞5	2012 年度第 3 回研究会開催の報告	
2013 年度学会賞候補の募集		■ 国際交流委員会だより14
■ 年会7	国際学会参加報告	
第 37 回年会開催案内（第 4 次）		国際学会開催情報	
		■ 編集委員会だより16
		特集のお知らせ	
		2012 年度第 3 回編集理事会報告	
		■ 広報委員会からのお知らせ18

日本科学教育学会第 255 回理事会報告（案）

（議事要録承認前。要点のみ参考掲載）

日 時 2013 年 3 月 16 日（土）14:00～17:00

会 場 コクヨ 品川オフィス会議室

出席者 会長 中山

片平 余田 小川 猿田 益子 銀島 寺田 小山 稲垣

今村 鈴木 縣 隅田 高藤 日野 久保田 谷塚

監事 熊野

事務局長 土田

幹事 青山

1. 議事要録（案）の承認

○第 254 回理事会議事録（案）を承認した。

2. 第 255 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果を承認した。

○事務局からの発議により、11 月 30 日までに入会を希望した 4 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認した（12 月 10 日）。

○事務局からの発議により、1 月 31 日までに入会を希望した 6 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認した（2 月 12 日）。

○事務局からの発議により、2 月 28 日までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果、全員の入会を承認した（3 月 10 日）。

3. 報告事項

1) 庶務・事務局

○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）の報告があった。

2) 経理・会員

○2012 年度中間決算について報告があった。法人化に伴う経理処理について、税理士に相談をした旨が報告された。

3) 機関誌編集

○機関誌編集状況について以下のような報告があった。

○特集（37-2、科学教師教育）の編集状況、特集（38-2、学習科学）の告知方法、特集編集部会の構成メンバー及び編集スケジュールについて、また、検討課題と議論の進捗について、報告があった。

4) 学会賞

○2013年度の学会賞募集の告知のレターとメールマガジンへの掲載が完了したことが報告された。

5) 支部・研究会

○研究会の開催報告、科学教育研究報告（科教研報）のHP掲載状況、支部規程及び研究会規程の改訂状況について報告があった。

6) 調査研究・学術交流

○平成25年度 教科「理科」関連学会協議会（CSERS）シンポジウム開催実施案について報告があった。

7) 国際交流

○ICASEと本学会の近年の交流状況に関する報告、及びICASE及びEASEとの今後の交流を慎重に検討するために委員が次年度開催大会へ参加する予定であることの報告があった。

8) 年会企画

○第37回年会開催について報告があった。

9) 広報・学会IT化

○特に報告事項はなかった。

10) 組織改革

○法人化に向けた作業状況について報告があった。

4. 協議事項

1) 退会希望者等について

○退会希望者7名及び保留となっていた（故）鈴木真理子会員の逝去退会を承認した。

*現在会員数1,375名（正会員1,241名、学生会員117名、名誉会員12名、公共会員2名、賛助会員3名）（2013年3月8日付）

※前回理事会…会員数：1,369名（正会員1,236名、学生会員116名、名誉会員12名、公共会員2名、賛助会員3名）（2012年10月29日付）

2) 下半期の予算執行

○年会システム運用保守・更新、ホームページ更新費（外国語）、学術交流等の今年度支出予定・来年度以降の予算について提案があり、承認した。

○年会補助費の執行について提案があり、法人化に伴う経理処理について確認の上、執行することになった。

3) 学会法人化について

○法人化の基本方針、ロードマップ、定款案について提案があり、今後も継続して協議を進めるものの、概ねの方針として承認した。

4) 法人化に伴う経理処理

- 税理士を顧問とする法人化手続きに伴い、これまでの相談内容について報告があり、今後も同税理士と継続して相談していくことを承認した。
- 過去の年会における領収書等の確認について、各年会の実行委員長に確認することとなった。

5) 学会賞（論文賞、奨励賞）の推薦促進について

- 推薦促進に向けての意見交換を行った。

5. 次回以降の理事会予定

- ・第 256 回（臨時）：2013 年 5 月 18 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス
- ・第 257 回：2013 年 6 月 15 日（土）14:00～17:00 場所：コクヨ品川オフィス

2013 年度学会賞候補の募集

本学会の学会賞：学会賞（大塚賞）、学術賞、国際貢献賞、論文賞、奨励賞及び科学教育実践賞を下記により募集する。会員の皆様からの多数の推薦をお願いしたい。

1. 推薦期限

2013 年 5 月 15 日（水）（必着）

2. 推薦資格

- (1) 本会会員とする。
- (2) 大塚賞は他薦のみ、その他の賞は自薦も可とする。
- (3) 会員は、各賞について、それぞれ 1 件のみ推薦できる。
- (4) 推薦者は、推薦の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロードできる）で、入手の上、その様式にしたがって作成した推薦書を日本科学教育学会事務支局に提出する。

3. 受賞資格

- (1) 学会賞（大塚賞）：日本科学教育学会・大塚賞の受賞者は、科学教育に関する著しい業績や貢献によって本学会の発展に寄与した本会会員とする。なお、本賞の受賞は 1 度限りとする。
- (2) 学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ、本学会の発展に寄与した本会会員とする。対象となる業績や功績は、原則として、賞の応募締切日から過去 10 年以内のものとする。なお、学術賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。
- (3) 国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員とする。対象となる業績や功績は、原則として、賞の応募締切日から過去 5 年以内のものとする。なお、国際貢献賞受賞後、さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。
- (4) 論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌に論文として発表した本会会員とする。対象となる論文は、原則として、賞の応募締切日から過去 3 年以内に発表されたものとする。なお、論文賞受賞後さらに優れた論文を発表した場合には、その論文について受賞対象とする。
- (5) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い、その成果を本学会の「科学教育研究」誌、年会論文集、研究会「研究報告」に発表した正会員で、受理の時点で満 38 歳未満の者とする。対象となる論文等は、原則として、賞の公募締切日から過去 2 年以内に発表されたものとする。なお、本賞の受賞は 1 度限りとする。
- (6) 科学教育実践賞：科学教育の実践研究において特に顕著な業績や功績のあった本会会員とする。また、本会会員との連携により、科学教育に従事し、教育上顕著な業績や功績のあったグループに対しても授与する。対象となる業績や功績は、賞の応募締切日から過去 3 年以内のものとする。なお、教育実践賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には、その部分について受賞対象とする。

4. 受賞件数

大塚賞、学術賞及び国際貢献賞の件数は特に定めない。論文賞、奨励賞及び科学教育実践賞の件数は2件以内である。

5. 選考

会員からの推薦に基づいて、学会賞選考委員会が候補を選定し、理事会が決定する。

6. 賞

(1) 本賞は賞状とする。

(2) 賞の贈呈は、2013年度定時総会において行う。

7. 受賞対象

論文賞の対象は、「科学教育研究」Vol.34、No.2以降に掲載の論文である。また、奨励賞の対象は、「科学教育研究」Vol.35、No.2以降、研究会「研究報告」Vol.25、No.4以降及び第35回・第36回年会論文集に掲載の論文が該当する。

第 37 回年会 開催案内（第 4 次）

1. 年会テーマ：学びの原点への回帰-学習の質を高める科学教育研究-
2. 日程： 2013 年 9 月 6 日（金）～8 日（日）（3 日間）
3. 会場： 三重大学共通教育校舎
（〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577）
<http://www.mie-u.ac.jp/campusmap/index.html>
4. 主催： 日本科学教育学会（後援：未定）
5. 年会実行委員会：
[実行委員長] 下村 勉
[事務局長] 荻原 彰
[年会論文集担当] 須曾野仁志
[委員] 平賀伸夫、魚住明生、田中伸明
6. 連絡先：〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577
三重大学教育学部・理科教育講座・荻原彰研究室
TEL 059-231-9325
[ogi \[at mark\] edu.mie-u.ac.jp](mailto:ogi[at mark]edu.mie-u.ac.jp)
7. 内容 次の内容を予定している。
 - (1) シンポジウム
検討中（決定次第、年会 Web サイトでお知らせする）
 - (2) 課題研究
前回の第 36 回年会と同様に、学会企画と自主企画を統合し、学会員から多様な研究テーマに関する企画を募集する。
 - (3) 一般研究発表
例年通り、1 件の発表の持ち時間は 20 分（発表 15 分、質疑 5 分）とする。
 - (4) インタラクティブセッション
例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場である。
 - (5) その他の企画：総会、懇親会、若手の会、各種会合など

8. 課題研究の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とする。企画をお持ちの方は応募願いたい。

<スケジュール>

- ・ 企画受付締切：2013年5月10日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・ 受理審議：2013年5月11日（土）～5月16日（木）【年会企画委員会】
- ・ 審議結果報告：2013年5月17日（金）【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・ 登壇者の最終確定：2013年5月31日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・ 原稿提出期限：2013年6月30日（日）【オーガナイザー → 年会企画委員会】

※6月30日は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出(Web アップロード)する期限であるため、注意されたい。

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究の Web ページからダウンロードして、必要事項を記入の上、電子メールにて送信すること。

<企画応募先>

jsse-kadai [at mark] freeml.com

<応募に当たっての留意事項>

- ・ オーガナイザー資格：会員でなければならない。
- ・ 登壇者（指定討論者含む）の確定：登壇者を企画受付締切までに確定すること。登壇者未定の企画は受理されない。なお、課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできない。登壇者を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究のテーマにおける発表と重複されていないかどうかについて、登壇者自身に対して発表の重複ができない点を周知した上で、確認してほしい。ただし、指定討論者については、重複を認める。
- ・ 登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問わない。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとする。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込むこととする。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されない。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えていて理由書が添えられている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議する。非会員による発表件数が企画受付締切時点（5月10日）で全発表件数の半数を超えておらずに受理された企画であっても、受理後にやむを得ない事情によって登壇者の変更がなされた結果、非会員による発表件数が全発表件数の半数を超えた場合には受理は取り消されるので、留意願いたい。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味する。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、企画受付締切日の年度ではな

く、年会在開催される新年度からの入会でも可とする（他のセッションの発表についても、同様とする）。

＜第 36 回大会に引き続き注意頂きたい点＞

- ・ 一次受付がない。
- ・ オーガナイザーは、ご自身で課題研究の Web ページから課題研究申請用紙及び理由書をダウンロードすること。

9. インタラクティブセッションの申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2013 年 6 月 17 日（月）0:00～6 月 30 日（日）23:59

※申込と原稿提出を同時に行うこと。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、年会 Web サイトの原稿提出用リンクからアップロードすること。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従うこと。

(3) 発表資格・発表可能件数

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければならない。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1 件である。なお、インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができる。

10. 一般研究発表の申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2013 年 6 月 17 日（月）0:00～6 月 30 日（日）23:59

※申込と原稿提出を同時に行うこと。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、年会 Web サイトの原稿提出用リンクからアップロードすること。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従うこと。

(3) 発表資格・発表可能件数

一般研究の登壇者は会員でなければならない。

登壇者として発表可能な一般研究の件数は、1 件である。一般研究の登壇者は、課題研究、インタラクティブセッション、その他の企画にも登壇することができる。

11. 年会論文集の電子化

前回の第 36 回年会と同様に、年会論文集を電子化する。

- ・ 年会当日は、学会会場の見取り図、プログラムなどが掲載された「年会論文要旨集」を紙媒体で配布する。ただし、年会論文要旨集には、個々の研究の論文は掲載されない。
- ・ 従来の体裁・様式を踏襲した「年会論文集」については、紙媒体での印刷・配布は行わず、電子ファイルで提供する。年会当日は、年会論文集の電子ファイルを格納した USB メモリなどの媒体を参加者に配布する。

12. 参加申込

- Web 参加申込と参加費事前払込期間：2013年6月17日（月）～8月15日（木）

※発表申込・原稿提出に加えて、Web 上からの参加申込もお願いしたい。

発表申込だけだと、参加申込が行われていない状態になってしまうのでご注意ください。

※参加費および年会論文集・追加購入費は、下記の表をご参照されたい。

※払込期限は、8月15日（木）までとする。これ以降は、当日会場にて参加費を支払い願いたい。

※参加費には、年会論文・要旨集（冊子体）1冊、年会論文集（USB メモリ）1個が含まれている。

※年会論文集・追加購入費には、年会論文集（USB メモリ）1個が含まれている。ただし、年会論文・要旨集（冊子体）は含まれていない。

- 申込先：年会 HP で告知する。
- 払込方法：下記口座に払込頂きたい。手数料は負担されたい。
百五銀行 栗真出張所（店番号 522）
口座番号 普通 330276
口座名義 日本科学教育学会第 37 回大会事務局

13. 懇親会

懇親会は原則として、Web 上からの事前申込となる。当日申込も受け付けるが、定員になり次第、締め切らせて頂く。

- 日時：9月7日（土）夕方
- 会場：三重大学生協食堂
- 懇親会費：以下の表を参照されたい。
- 申込先：参加申込とあわせて、Web 上から申し込み頂きたい。
- 払込方法：参加費とあわせて払込頂きたい。

	種別	8月15日までに払込	当日
参加費 ※参加費には、年会論文・要旨集（冊子体）1冊、年会論文集（USBメモリ）1個が含まれています。	一般会員	¥6,500	¥7,000
	学生会員	¥4,500	¥5,000
	一般非会員	¥8,000	¥10,000
	学生非会員	¥6,500	¥7,000
年会論文集・追加購入費 ※追加購入費には、年会論文集（USBメモリ）1個が含まれています。ただし、年会論文・要旨集（冊子体）は含まれていません。	種別関係なく	¥2,500	¥3,000
懇親会費	一般会員	¥5,000	¥6,000
	学生会員	¥3,000	¥5,000
	一般非会員	¥6,000	¥6,000
	学生非会員	¥6,000	¥6,000
昼食代（9月7日）	種別関係なく	¥700	当日は受け付けません

*9月7日、8日とも生協食堂は営業していない。7日の総会は昼食をとりながら行うので、会員の方は昼食を持参いただくか、弁当を注文されたい。

14. 年会企画委員会

委員長： 谷塚光典（信州大学）

副委員長： 佐伯昭彦（鳴門教育大学）
松浦拓也（広島大学）

幹事： 瀬戸崎典夫（首都大学東京）

委員（五十音順）：阿部好貴（新潟大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、加納 圭（滋賀大学）、鈴木哲也（東京未来大学）、大黒孝文（同志社女子大学）、東原貴志（上越教育大学）、増田有紀（東京成徳大学）、松寄昭雄（埼玉大学）、松元新一郎（静岡大学）、御園真史（島根大学）、向 平和（愛媛大学）、谷田親彦（広島大学）、山本智一（宮崎大学）、渡辺雄貴（首都大学東京）

担当理事： 高藤清美（筑波学院大学）、日野圭子（宇都宮大学）

2012 年度研究会開催のお知らせ

2013年6月までの研究会の開催について、下記の通りである。なお、学会ホームページにも案内を掲載しており、ご覧頂きたい。

(1) 2012 年度第 4 回研究会(中国支部開催)のご案内

[テーマ] 地域に根付いた科学教育

[主 催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会中国支部

[後 援] 岡山県教育委員会、岡山市市教育委員会 (予定)

[日 時] 2013 年 6 月 1 日 (土) 10:00~17:00

[会 場] 岡山理科大学

[参加費] 無料 (ただし、資料代 1,000 円)

① 発表申込み

発表を希望される方は、(1)発表題名、(2)著者名(登壇者に○)、(3)所属、(4)連絡先住所、氏名、電話番号、電子メール、(5)その他、発表に関する要望(使用機器等)、(6)懇親会への参加・不参加を明記した E-mail を 2012 年度第 4 回研究会実行委員長：宮地 功(岡山理科大学)まで送付頂きたい。

連絡先・送付先：〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学総合情報学部情報科学科
宮地 功 E-mail : [miyajil\[at\]mark\[mis.ous.ac.jp\]](mailto:miyajil[at]mark[mis.ous.ac.jp]) Tel : 086-256-9651

② 発表申込み締切

発表申込み締切は、2013 年 5 月 7 日 (火) とする。

③ 原稿の提出方法等

発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に E-mail にてお知らせする。原稿は Word ファイルと PDF ファイルとして送付頂きたい。

また、原稿送付締切は、2013 年 5 月 17 日 (金) とする。

多くの方の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 中国支部長 宮地 功(岡山理科大学)
(2012 年度第 4 回日本科学教育学会研究会実行委員長)

(2) 2012 年度第 5 回研究会(東海支部開催)のご案内

[テーマ] ICT を活用した教育実践

[主 催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会東海支部

[日 時] 2013 年 6 月 22 日 (土) 10:00~17:00

[会 場] 岐阜大学教育学部 B102 教室

① 申込み方法

発表を希望される方は、2012 年度第 5 回研究会企画編集担当：村瀬康一郎(岐阜大学)まで、メールまたは FAX で申込み頂きたい。

連絡先・送付先 〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 岐阜大学総合情報メディアセンター

村瀬康一郎 E-mail : [murase\[at mark\]gifu-u.ac.jp](mailto:murase[at mark]gifu-u.ac.jp)
Tel : 058-293-2347 Fax : 058-293-3384

② その他（支部総会の開催）

お昼の時間帯に東海支部総会を開催する。
多くの方の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 東海支部長 丹沢哲郎（静岡大学）

(3) 2012年度第6回研究会（北陸甲信越支部開催）のご案内

[テーマ] 持続可能な社会をつくるこれからの科学教育

[主催] 日本科学教育学会、日本科学教育学会北陸甲信越支部

[共催] 上越教育大学

[後援] 新潟県教育委員会（予定）、上越市教育委員会（予定）、妙高市教育委員会（予定）、
糸魚川市教育委員会（予定）

[日時] 2013年6月29日（土） 13:00～17:00

[会場] 上越教育大学

[対象] 学会員、教員、学生、社会人

[参加費] 無料（発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方も参加いただけます。）

① 申込み方法

発表を希望される方は、発表者氏名、所属、発表タイトル、連絡先、使用機器を明記した E-mail
を2012年度第6回研究会企画編集担当：稲田結美（上越教育大学）まで、送付頂きたい。

連絡先・送付先：〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学

稲田結美 E-mail : [jsse2013\[at mark\]juen.ac.jp](mailto:jsse2013[at mark]juen.ac.jp) Tel : 025-521-3458

② 発表申込み締切

発表申込み締切は、2013年5月20日（月）とする。

③ 原稿の提出方法等

発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に E-mail にてお知らせする。

また、原稿送付締切は、2013年6月7日（金）とする。

多くの方の申込みをお待ちしております。

日本科学教育学会 北陸甲信越支部長 藤岡達也（上越教育大学）

(4) 2012年度第3回研究会（北関東支部開催）の報告

2013年4月13日（土）に、第3回日本科学教育学会研究会（北関東支部開催）：テーマ「科学教育の新しい流れ」が筑波大学で開催された。第3回研究会のプログラム及び研究報告については、学会ホームページにおいて順次掲載するので、ご覧いただきたい。

国際学会参加報告（8）-ASE Annual Conference 2013-

2013年新年早々（1月2日～5日）、英国のレディング大学（University of Reading）で開催されたASE（The Association for Science Education）の第50回記念大会に参加した。時期的なことであってか、日本人の参加は私だけのようだった（日本の某教材会社の方の参加はあったが）。本大会には、テーマ“Constructing the future of science education: tackling 50 year challenges”のもと、Assessment、Curriculum Development、Mathematics in Science、Policy into Practice、Practical/Outdoor Science、Research into practice、Science for Allの区分にのべ260余の発表・ワークショップ等が用意されていた。セッション参加費の無料、有料にかかわらず、その内容は大変充実したものであった。

私が参加したセッションは、3～4名の発表によるディスカッション形式や一人トークのような一般的なものもあったが、実際に参加者が目の前にある大きな模造紙に科学的な現象の絵を描いてみるワークショップ形式や、ペーパークラフトのようなノートのまとめ方例（実物）を多数見せて触らせる解説ショーも用意されていた。途中でコーヒブレークがあった和気あいあい型のユニークなセッションやサイエンスマジックのイベントのような化学反応の実験のセッションも実施されていた。オープンカンファレンスやポスター発表のほかにフォロンティア・サイエンス（ホストの大学スタッフがセッションを持ち、レクチャーをする）の設定もされ、工夫がこらされていた。教材や実験器具等の展示も特別に設営された会場でかなり広いところでじっくり見学しゆっくり楽しめるようになっていた。

この他、ソーシャルプログラムとしてインターナショナル・ビュッフェ・サパーやアソシエーション・ディナー、あるいはエクスカージョン、サルサ・ダンス、ディスコの時間も用意されていたが、そちらの方は、残念ながら不参加であった。

全体を通して印象づけられた点は、やはり50年のキャリアであろうか。会場設定の充実やプログラムの工夫とともに、多くの参加者が近距離で語り合い、実践と研究を具体的に結びつけようとしている姿にそう感じた。また参加したい海外の研究会となった。

学会ホームページ：<http://www.ase.org.uk/home/>

（兵庫教育大学 溝邊和成）

国際学会開催情報

(1) GCCSE 2013 (Global Chinese Conference on Science Education 2013)

2013年7月7-9日に、中国のSouth China Normal Universityにて、第2回「Global Chinese Conference on Science Education 2013」が開催される。テーマは、「Science Education and Liberal Education」である。発表申込の〆切は4月15日である。

大会ホームページ：http://gccse2013.scnu.edu.cn/main_e/index.html

(2) ED-MEDIA 2013 – World Conference on Educational Media and Technology

2013年6月24-28日に、カナダのVictoriaにて開催される。発表申込の〆切は4月16日である。

大会ホームページ：<http://www.aace.org/conf/edmedia/>

(3) ICCE2013 (International Conference on Computers in Education 2013)

2013年11月18-22日に、インドネシアのバリ島にて、第21回「International Conference on Computers in Education」が開催される。テーマは、「Transforming Teaching and Learning through Integrated Learning Environments for 21st Century Learners」である。発表申込の〆切は5月6日である。

大会ホームページ：<http://icce2013bali.org>

- (4) NCTM 2013 (National Council of Teachers of Mathematics 2013) Research Pre-session
2013年4月15-17日に、アメリカコロラド州デンバーにて開催される。

大会ホームページ：<http://www.nctm.org/pre-session/>

- (5) NCTM 2013 (National Council of Teachers of Mathematics 2013) Annual Meeting & Exposition

2013年4月17-20日に、アメリカコロラド州デンバーにて開催される。

大会ホームページ：<http://www.nctm.org/denver/>

- (6) ICTMT 11 (International Conference on Technology in Mathematics Teaching)

2013年7月9-12日に、イタリアのBariにて、第11回「International Conference on Technology in Mathematics Teaching」が開催される。

大会ホームページ：<http://www.dm.uniba.it/ictmt11/>

- (7) ICMI STUDY 22 (International Commission on Mathematical Instruction): TASK DESIGN IN MATHEMATICS EDUCATION, ICMI Study Conference

2013年7月22-26日に、イギリスオックスフォード大学教育学部にて開催される。

大会ホームページ：<http://www.mathunion.org/icmi/conferences/icmi-studies/ongoing-studies/>

- (8) PME 37 (The International Group for the Psychology of Mathematics Education)

2013年7月28日から8月2日に、ドイツのKielにて、第37回「Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education」が開催される。

大会ホームページ：<http://www.pme2013.de/en>

- (9) ATCM 2013 (Asian Technology Conference in Mathematics)

2013年12月7-11日に、インドのムンバイにある Indian Institute of Technology Bombay にて、第18回「Asian Technology Conference in Mathematics」が開催される。発表申込の〆切は6月15日である。

大会ホームページ：<http://atcm.mathandtech.org/>

特集のお知らせ

編集委員会では、下記の主旨で、「科学教育研究」第38巻、第2号での特集を企画する。研究論文、総説・展望、資料、プラザ、全ての種別の原稿を募集する。ふるってご投稿のほどお願いしたい。

なお、投稿規定により、「科学教育研究」への投稿論文は、筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要があるため、その点ご注意ください。

編集委員長 吉川 厚

特集編集部会長 村山 功

記

特集名：学習科学 (Learning Sciences)

「学習科学」とは、これまでの認知学習研究で明らかになってきた知見を基盤として、教室などの現実場面において学習の質の向上を目指したり、そこで起きる学習過程を解明して新たな知見を構築していく学問分野であり、以下のような特徴を持つ。

- ・教育を改善することが目的であり、理学的というよりも工学的である
- ・要因を統制した実験室的な場面での研究よりも、現実場面で生じる学習を研究する
- ・既存の学習環境で生じている学習を観察・分析するよりも、デザインされた環境で学習を促進する方法を研究する
- ・ポストテストの成績だけで学習を評価するよりも、学習のプロセスや学習成果の質の変化を丁寧に評価する

中央教育審議会では、平成24年8月28日の第82回総会において「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について（答申）」を取りまとめた。この中には、「これからの教育は、どのような教育活動の展開が学習成果に結びつくかという、学習科学等の実証的な教育学の成果に基づいて行われることが望まれる」と書かれている。

日本の学力向上という目的に向けて、学習成果を保障する実証的な研究が求められている現状に鑑み、本特集では以下の領域において、「これまでの認知学習研究で明らかになってきた知見を基盤とした、学習成果を保障する教育活動に関する実証的な研究の成果」を募集する。

- 1) 学習の質の向上を目指した実践研究
- 2) 学習の質が向上する学習過程の検討
- 3) ICT等を活用した学習環境の開発とその効果の検証
- 4) 実践-評価-修整の反復による授業づくりの原則の提案
- 5) その他、学習科学に関する研究

なお、特集編集部会が、上記趣旨に合わないと思われる論文につきましては、一般論文に回っていただくこともあるので、あらかじめご承知をお願いしたい。

以上

特集編集部会の構成メンバー

部会長 村山 功（静岡大学）

副部会長 益川弘如（静岡大学）、鈴木栄幸（茨城大学）

特集編集部会委員 加藤 浩（放送大学）、竹中真希子（大分大学）、長崎栄三（静岡大学）、
布川和彦（上越教育大学）、日野圭子（宇都宮大学）、望月俊男（専修大学）、
山口悦司（神戸大学）

投稿受付開始：2013年5月1日（水）

投稿締め切り：2013年9月30日（月）

発刊予定：2014年6月

2012年度第3回編集理事会報告

2013年3月16日（土）11:00～13:10、平成24年度第3回編集理事会がコクヨ品川オフィス1階106号室において開催された。

平成24年度第2回編集理事会（平成24年11月3日開催）議事録の確認と「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた。新規投稿論文（2013.1.21～2013.2.28）3編（和文3編、英文0編）、査読中論文31編（担当編集委員選定中2編、査読中（1回目）6編、担当編集委員による総合判定済（1回目）3編、改訂稿待ち12編、査読中（2回目）7編、担当編集委員による総合判定中（2回目）1編）、掲載決定論文1編（研究論文1編（通算合計37-2：4編））であった。

続いて、以下の通り報告と議論が行われた。

- (1) 第37巻第2号の特集（科学教師教育）について、銀島編集担当理事より編集状況の報告が行われた。また、発刊スケジュールの確認がなされた。
- (2) 第38号特集（学習科学（Learning Sciences））について、村山次期特集編集部会長より説明があり、告知文の内容と特集編集部会の構成メンバーが了承された。また、学会Web等に告知文を掲載することになった。
- (3) 編集理事会で取り組むべき課題について、意見交換がなされた。

次回、2012年度第4回編集理事会は、2013年5月18日（土）、11:00～13:00、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(平成25年2月28日 現在)

	新規投稿論文数(編)		審査中(編)		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2012年 3月	14	0	30	4	4 (36-2) 0 (36-3)	0 (36-2) 0 (36-3)	0		5	0
4月	4	0	25	0	7 (36-2) 0 (36-3)	2 (36-2) 0 (36-3)	0		4	0
5月	7	1	26	1	0 (36-2) 2 (36-3)	0 (36-2) 0 (36-3)	0	2 (36-2)	4	0
6月	4	0	28	1	0 (36-3) 0 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		2	0
7月	4	0	27	1	4 (36-3) 0 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		1	0
8月	5	1	26	1	0 (36-3) 1 (36-4)	0 (36-3) 1 (36-4)	0		4	1
9月	9	0	25	0	0 (36-3) 2 (36-4)	0 (36-3) 0 (36-4)	0		9	0
10月	21	1	42	1	0 (36-4) 3 (37-1)	0 (36-4) 0 (37-1)	0		1	0
11月	7	0	36	0	3 (37-1) 0 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		11	0
12月	7	0	36	0	2 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		4	0
2013年 1月	7	0	36	0	0 (37-1) 2 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		5	0
2月	2	0	31	0	0 (37-1) 1 (37-2)	0 (37-1) 0 (37-2)	0		5	1

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第212号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：久保田善彦(宇都宮大) 谷塚光典(信州大)
 委員：縣秀彦(国立天文台) 銀島文(国立教育政策研究所)
 稲垣成哲(神戸大) 東原貴志(上越教育大)
 今村哲史(山形大) 高橋みどり(静岡北高)
 幹事：内ノ倉真吾(鹿児島大) 小松孝太郎(信州大) 福井智紀(麻布大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 宮崎大学大学院教育学研究科 内

□事務支局(入退会・会費・学会誌発送関連)

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662

E-mail : [jsse\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

□編集事務局(論文投稿・査読編集)

TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050

E-mail : [jsse-hen\[at mark\]nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会

銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会